

皆様おはようございます。いよいよ8月も最後の週となりました。暑さもだいぶ和らいできましたでしょうか。夜は涼しげな鈴虫の音が聞こえるようになりました。

読み進めてまいりましたヘブル書も、いよいよ今日で最後です。

比類なきイエス様の天の大祭司としてのご存在が余すところなく語られました。今日の個所では、申命記31章のこの御言葉が引用されました。

「だから、わたしたちは、はばからずに言おう、『主はわたしの助け主である。わたしには恐れはない。人は、わたしに何ができようか』」

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ」、「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変わることがない」(ヘブル12章)というイエス様を見続けましょう。

「…死ということがあるために、務を続けることができないので、多くの人々が祭司に立てられるのである。しかし彼は、永遠にいますかたであるので、変らない祭司の務を持ちつづけておられるのである。そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。」(ヘブル7章)

このイエス様を見ましょう。

「さらに、『主よ、あなたは初めに、地の基をおすえになった。もろもろの天も、み手のわざである。これらのものは滅びてしまうが、あなたは、いつまでもいますかたである。すべてのものは衣のように古び、それらをあなたは、外套のように巻かれる。これらのものは、衣のように変るが、あなたは、いつも変わることがなく、あなたのよわいは、尽きることがない』とも言われている。」(ヘブル1章)

「だから、わたしたちは、はばからずに言おう、『主はわたしの助け主である。わたしには恐れはない。人は、わたしに何ができようか』」

ですから、私たちは力強い守りの中にありますから、恐れずはばからず、確信をもって、迷わされることなく、ただひたすらイエス様にあって進むことができます。

ですから、私たちはこのように生きましょう。

1 兄弟愛を続けなさい。

兄弟愛を続けること。これが大切なことです。

1 ヨハネ 4:7 愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。

4:8 愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

4:20 「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見ている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。

4:21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。

ヨハネ 13:34 わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

13:35 互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。

2 旅人をもてなすことを忘れてはならない。このようにして、ある人々は、気づかないで御使たちをもてなした。

創世記では、アブラハムトロトが御使いをもてなした出来事が記してあります。

創世記 18:1 主はマムレのテレビンの木のかたわらでアブラハムに現れられた。それは昼の暑いところで、彼は天幕の入口にすわっていたが、

18:2 目を上げて見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。彼はこれを見て、天幕の入口から走って行って彼らを迎え、地に身をかがめて、

18:3 言った、「わが主よ、もしわたしがあなたの前に恵みを得ているなら、どうぞしもべを通り過ぎさないでください。

18:4 水をすこし取ってこさせますから、あなたがたは足を洗って、この木の下でお休みください。

18:5 わたしは一口のパンを取ってきます。元気をつけて、それからお出かけください。せっかくしもべの所においでになったのですから」。彼らは言った、「お言葉どおりにしてください」。

18:6 そこでアブラハムは急いで天幕に入り、サラの所に行って言った、「急いで細かい麦粉三セヤをとり、こねてパンを造りなさい」。

18:7 アブラハムは牛の群れに走って行き、柔らかな良い子牛を取って若者に渡したので、急いで調理した。

18:8 そしてアブラハムは凝乳と牛乳および子牛の調理したものを取って、彼らの前に供え、木の下で彼らのかたわらに立って給仕し、彼らは食事した。

18:9 彼らはアブラハムに言った、「あなたの妻サラはどこにおられますか」。彼は言った、「天幕の中です」。

18:10 そのひとりが言った、「来年の春、わたしはかならずあなたの所に帰ってきましょう。その時、あなたの妻サラには男の子が生まれているでしょう」。

19:1 そのふたりのみ使は夕暮にソドムに着いた。そのときロトはソドムの門にすわっていた。ロトは彼らを見て、立って迎え、地に伏して、

19:2 言った、「わが主よ、どうぞしもべの家に立寄って足を洗い、お泊まりください。そして朝早く起きてお立ちください」。彼らは言った、「いや、われわれは広場で夜を過ごします」。

19:3 しかしロトがしいて勧めたので、彼らはついに彼の所に寄り、家にはいった。ロトは彼らのためにふるまいを設け、種入れぬパンを焼いて食べさせた。

3 獄につながれている人たちを、自分も一緒につながれている心持で思いやりなさい。また、自分も同じ肉体にある者だから、苦しめられている人たちのことを、心にとめなさい。

マタイ 25:34 そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

25:35 あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

25:36 裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである』。

25:37 そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。

25:38 いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。

25:39 また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか』。

25:40 すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。

4 すべての人は、結婚を重んずべきである。また寝床を汚してはならない。神は、不品行な者や姦淫をする者をさばかれる。

そのように深い愛と神様の見守りの中にいるのですから、愛を知り、旅人をもてなし、人の痛みが分かるようになったのですから、欲を避けて進みなさい、神様のお守りを信じて私たちの人生を迷わす諸々のものから遠ざかりなさいと聖書は語ります。

創世記 2:20 それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。

2:21 そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠った時に、そのあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。

2:22 主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。

2:23 そのとき、人は言った。「これこそ、ついにわたしの骨の骨、／わたしの肉の肉。男から取ったものだから、／これを女と名づけよう」。

2:24 それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。

エペソ 5:22 妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい。

5:23 キリストが教会のかしらであって、自らは、からだなる教会の救主であられるように、夫は妻のかしらである。

5:24 そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。

5:25 夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。

5:26 キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

5:27 また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

5:28 それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。

5:29 自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもいない。かえって、キリストが教会になさったようにして、おのれを育て養うのが常である。

5:30 わたしたちは、キリストのからだの肢体なのである。

5:31 「それゆえに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである」。

5:32 この奥義は大きい。それは、キリストと教会とをさしている。

5:33 いずれにしても、あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。

この奥義は大きい、偉大だと聖書は語ります。神様はその人その人にふさわしい助け手をつくり、導かれ、一体となし、そして夫婦の関係を通してキリストと教会との関係をも教えておられます。この結婚が重んじられ、不品行や姦淫は除外されます。

5 金銭を愛することをしないで、自分の持っているもので満足しなさい。主は、「わたしは、

決してあなたを離れず、あなたを捨てない」と言われた。

6 だから、わたしたちは、はばからずに言おう、／「主はわたしの助け主である。わたしには恐れはない。人は、わたしに何ができようか」。

1 テモテ 6:4 彼は高慢であって、何も知らず、ただ論議と言葉の争いとに病みついている者である。そこから、ねたみ、争い、そしり、さいぎの心が生じ、

6:5 また知性が腐って、真理にそむき、信心を利得と心得る者どもの間に、はてしのないいがみ合いが起るのである。

6:6 しかし、信心があって足ることを知るのは、大きな利得である。

6:7 わたしたちは、何ひとつ持たないでこの世にきた。また、何ひとつ持たないでこの世を去って行く。

6:8 ただ衣食があれば、それで足れりとすべきである。

6:9 富むことを願い求める者は、誘惑と、わなとに陥り、また、人を滅びと破壊とに沈ませる、無分別な恐ろしいさまさまの情欲に陥るのである。

6:10 金銭を愛することは、すべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、多くの苦痛をもって自分自身を刺しとおした。

6:11 しかし、神の人よ。あなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。

主は私たちが離れず、主は私たちをお見捨てにならず、傲慢なものを忍耐を持って導き、荒れ野の中を忍耐強く実に40年まで導いて下さいました。

申命記 8:2 あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。

8:3 それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに知らせるためであった。

8:4 この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。

8:5 あなたはまた人がその子を訓練するように、あなたの神、主もあなたを訓練されることを心にとめなければならない。

「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」「主はわたしの助け主である。わたしには恐れはない。人は、わたしに何ができようか」。

申命記 31:1 そこでモーセは続いてこの言葉をイスラエルのすべての人に告げて、

31:2 彼らに言った、「わたしは、きょう、すでに百二十歳になり、もはや出入りするとはできない。また主はわたしに『おまえはこのヨルダンを渡ることはできない』と言われた。

31:3 あなたの神、主はみずからあなたに先立って渡り、あなたの前から、これらの国々の民を滅ぼし去って、あなたにこれを獲させられるであろう。また主がかつて言われたように、ヨシュアはあなたを率いて渡るであろう。

31:4 主がさきにアモリびとの王シホンとオグおよびその地にされたように、彼らにもおこなって彼らを滅ぼされるであろう。

31:5 主は彼らをあなたがたに渡されるから、あなたがたはわたしが命じたすべての命令のとおり彼らに行わなければならない。

31:6 あなたがたは強く、かつ勇ましくなければならない。彼らを恐れ、おののいてはならない。あなたの神、主があなたと共に行かれるからである。主は決してあなたを見放さず、またあなたを見捨てられないであろう」。

ヨシュア 1:5 あなたが生きながらえる日の間、あなたに当ることのできる者は、ひとりもないであろう。わたしは、モーセと共にいたように、あなたと共にいるであろう。わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。

1:6 強く、また雄々しくあれ。あなたはこの民に、わたしが彼らに与えると、その先祖たちに誓った地を獲させなければならない。

1:7 ただ強く、また雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。それはすべてあなたが行くところで、勝利を得るためである。

1:8 この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄え、あなたは勝利を得るであろう。

1:9 わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない」。

7 神の言をあなたがたに語った指導者たちのことを、いつも思い起しなさい。彼らの生活の最後を見て、その信仰にならなさい。

8 イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない。

神の言葉を語り導いた指導者たちは、神様の言葉にすがり、執り成し祈り、御言葉を語った指導者たちは最後にどうなったかをしかと見なさい。そして彼らの信仰に倣いなさい。彼らもまた「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ」進みましたが、

やがて生涯を終えて去っていきますが、「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることが」ありません。

ヘブル 1:10 さらに、／「主よ、あなたは初めに、地の基をおすえになった。もろもろの天も、み手のわざである。

1:11 これらのものは滅びてしまうが、／あなたは、いつまでもいますかたである。すべてのものは衣のように古び、

1:12 それらをあなたは、外套のように巻かれる。これらのものは、衣のように変るが、／あなたは、いつも変ることがなく、／あなたのよわいは、尽きることがない」／とも言われている。

9 さまざまな違った教によって、迷わされてはならない。食物によらず、恵みによって、心を強くするがよい。食物によって歩いた者は、益を得ることがなかった。

10 わたしたちには一つの祭壇がある。幕屋で仕えている者たちは、その祭壇の食物をたべる権利はない。

11 なぜなら、大祭司によって罪のためにささげられるけものの血は、聖所のなかに携えて行かれるが、そのからだは、営所の外で焼かれてしまうからである。

12 だから、イエスもまた、ご自分の血で民をきよめるために、門の外で苦難を受けられたのである。

13 したがって、わたしたちも、彼のはずかしめを身に負い、営所の外に出て、みもとに行こうではないか。

ヤコブ 1:13 だれでも誘惑に会う場合、「この誘惑は、神からきたものだ」と言ってはならない。神は悪の誘惑に陥るようなかたではなく、また自ら進んで人を誘惑することもなさない。

1:14 人が誘惑に陥るのは、それぞれ、欲に引かれ、さそわれるからである。

1:15 欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生み出す。

1:16 愛する兄弟たちよ。思い違いをしてはいけない。

1:17 あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。

人の欲のゆえに人はおびき寄せられ、引き寄せられ、罪を犯します。食べ物の規定を守ることによって人の奥深い欲と罪の法則から人を救い出すことは出来ません。

何を食べるか、何を飲むかよりも、神の国と神の義、神様の御心を追い求めるべきです。

マタイ 6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思い  
わずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、  
これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与  
えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであ  
ろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

イスラエルの民は罪を犯し、神様への礼拝に耐ええず、いけにえの身体も、血をも必要とし  
ましたが、それでもなお罪を犯し、神様は宿営の外に新たに会見の幕屋をお造りになられま  
した。本来は宿営の外の汚れたところに、神様はご自身の会見の幕屋をお与えになられまし  
た。

出エジプト 33:3 あなたがたは乳と蜜の流れる地にのぼりなさい。しかし、あなたがたは、  
かたくなな民であるから、わたしが道であなたがたを滅ぼすことのないように、あなたがた  
のうちにあって一緒にはのぼらないであろう」。

33:4 民はこの悪い知らせを聞いて憂い、ひとりもその飾りを身に着ける者はなかった。

33:5 主はモーセに言われた、「イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたは、かたくな  
な民である。もしわたしが一刻でも、あなたがたのうちにあって、一緒にのぼって行くなら  
ば、あなたがたを滅ぼすであろう。ゆえに、今、あなたがたの飾りを身から取り去りなさい。  
そうすればわたしはあなたがたになすべきことを知るであろう』」。

33:6 それで、イスラエルの人々はホレブ山以来その飾りを取り除いていた。

33:7 モーセは幕屋を取って、これを宿営の外に、宿営を離れて張り、これを会見の幕屋と  
名づけた。すべて主に伺い事のある者は出て、宿営の外にある会見の幕屋に行った。

33:8 モーセが出て、幕屋に行く時には、民はみな立ちあがり、モーセが幕屋にはいるまで、  
おのおのその天幕の入口に立って彼を見送った。

33:9 モーセが幕屋にはいると、雲の柱が下って幕屋の入口に立った。そして主はモーセと  
語られた。

33:10 民はみな幕屋の入口に雲の柱が立つのを見ると、立っておのおの自分の天幕の入口  
で礼拝した。

12 だから、イエスもまた、ご自分の血で民をきよめるために、門の外で苦難を受けられた  
のである。

13 したがって、わたしたちも、彼のはずかしめを身に負い、営所の外に出て、みもとに行

こうではないか。

イエス様はその町の門の外で、辱めを受け、十字架につけられ、そこに人のための贖いをなして私たちのための神様との会見の幕屋となって下さいました。

私たちも守られた町の門の外に出て、罪の嵐の中、辱めと悩みとを負い、苦難を受け、そこでキリストを証しし、そこを会見の幕屋として頂くのです。

ヨハネ 16:31 イエスは答えられた、「あなたがたは今信じているのか。

16:32 見よ、あなたがたは散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとりだけ残す時が来るであろう。いや、すでにきている。しかし、わたしはひとりではない。父がわたしと一緒におられるのである。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

14 この地上には、永遠の都はない。きたらんとする都こそ、わたしたちの求めているものである。

15 だから、わたしたちはイエスによって、さんびのいけにえ、すなわち、彼の御名をたたえるくちびるの実を、たえず神にささげようではないか。

16 そして、善を行うことと施しをすることとを、忘れてはいけない。神は、このようないけにえを喜ばれる。

やがて来たらんとする天の都があります。私たちはその中に住む希望を持っています。

私たちは、私たちのために命を捧げて下さいました主イエスキリストにより、父なる神様に感謝を捧げましょう。そして善を行い、施しをして、仕え、貢献して、互いに積極的に支え合っていきましょう。それが神様の喜ばれるいけにえです。

ローマ 12:1 兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。

17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞きいれて、従いなさい。彼らは、神に言いひらきをすべき者として、あなたがたのたましいのために、目をさましている。彼らが嘆かないで、喜んでこのことをするようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならない。

18 わたしたちのために、祈ってほしい。わたしたちは明らかな良心を持っていると信じており、何事についても、正しく行動しようとして願っている。

19 わたしがあなたがたの所に早く帰れるため、祈ってくれるように、特にお願いします。  
13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死人の中から引き上げられた平和の神が、  
13:21 イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにして下さり、あなたがたが御旨を行うために、すべての良きものを備えて下さるようにこい願う。栄光が、世々限りなく神にあるように、アアメン。

17節では、またも指導者について語られます。私たちが意気消沈させずに、魂の見張り役である私たちを受け入れてほしいと語ります。そして18節では私のために祈ってほしい、明らかな良心で行動できるように、正しく行動できるようにと願っています。確信に満ち、天の神殿をも仰ぎ見て語った伝道者も、祈りを要する、助けを要するひとりの人間でした。そして群れでの交わりの中で共に主を仰ぎたいと願い、祈るのです。私たちは助け合う存在です。誰が上であるとか下であるとかではなくて、共に兄弟愛をもって仕え合い、身を清く保ち、迷わされず、ただ信仰をもって主を仰ぎ、主イエスキリストの父なる神に向かって突き進む民です。主の豊かなお守りが、この教会と、私たち一人一人になおなお止むことなく注がれますようにと祈ります。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「主はわたしの助け手。わたしは恐れない。人はわたしに何ができるだろう」。イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わる事のない助け手であり、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことができになりますから、感謝いたします。イエスは永遠に生きておられ、変わる事のない祭司ですから私たちはいつも恐れません。生ける神様、どうぞ今週も私たちをお守りください。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン